
ブラックバスのつづやき

どくだみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラックバスのつばやき

【Nコード】

N3831I

【作者名】

どくだみ

【あらすじ】

僕の名前はブラックバス。最近はずつかり悪者扱いさ。でもね、僕たちの言い分も聞いておくれよ！

(前書き)

これは大人のための童話です。

僕たちは何年か前まで人気者だった。人間たちは皆、僕たちを釣り上げるのに夢中になった。でも、今や僕たちは嫌われ者だ。そう、僕の名前はブラックバス。この湖に住んでいる魚だ。

僕たちのご先祖様は大正時代にアメリカという国から、人間の手でこの日本に連れてこられた。なんでも日本とアメリカが仲良くするために連れてこられたのだとか。

その後は、僕たちを釣るのが面白いということで、いろんなところに無理やり引越しをさせられた。この湖だって昔、僕たちは住んでいなかった。

僕たちが嫌われている理由は、他の魚を食べるからだそうだ。湖の殺し屋なんて言う人間もいる。

でもちよつと待って。僕たちはそんなに魚を食べちゃいけないよ。僕の身体を見てごらんよ。ずいぶんズングリしていると思わないかい？ 僕たちは泳ぐのがそんなに得意じゃないんだ。僕たちが魚を追いかけると大抵逃げられちゃう。たまには魚も食べるけど、それは弱った魚や、目の前をたまたま通りかかった魚がほとんどさ。

僕の前で何かもぞもぞと動いた。やった。ごちそうだ。僕は湖の底をゆっくりと這っているアメリカザリガニを口に啜えた。

そう。こいつが、いつも僕たちが食べているものさ。追いかけても簡単に捕まえられるからね。

僕の頭の上を5匹くらいのワカサギ君たちが猛スピードで泳いでいく。何かに追いかけられているんだな。断っておくけど、僕が追いかけているんじゃないよ。

すると、ワカサギ君の後ろから大きな影が突進してきた。僕の身体の2倍はありそうな、でっかいニジマスだ。ニジマスは「へ」の字型の大きな口を開けると、ワカサギ君をまとめてパツクンと呑み込んでしまった。

ニジマスって奴は虫が好かない。あいつらも同じアメリカから来たのに、昔から日本にいるような顔をして泳ぎ回っている。ニジマスは僕たちより先に日本に来たらしいけど、大勢で押しかけてきたのは、日本が戦争に負けて、アメリカの兵隊さんたちが日本で釣りを楽しむようになってからだ。

ニジマスは僕たちより泳ぎが上手いし、細長い身体はスピードも出る。それに湖をいつもグルグル回って、ワカサギ君の後を追い掛け回しているんだ。

人間たちはこの湖のワカサギが減ったと言っている。僕は知っている。この湖のワカサギ君たちが減っているのは、ニジマスの奴らがいいように食っているからなんだ。人間たちはそれでもニジマスをせっせと湖に放して、ワカサギ君が減っているのは僕たちのせいだと言っている。濡れ衣もいいところだ。

ワカサギ君を食べているのはニジマスだけじゃない。昔からこの湖に住んでいるコイのおばさんや、ハヤのお姉さんだって卵を産む時期になると、目の色を変えてワカサギ君を追い掛け回すんだ。へっ、意外だろ。

ワカサギ君たちが少なくなったのは何も魚のせいばかりじゃない。ワカサギ君たちはこの湖に流れ込む川に行つて卵を産むんだ。でも人間たちはその川にも、この湖にも汚い水を垂れ流している。これじゃ、ワカサギ君だつて減るよね。

おまけに湖の回りは結構コンクリートで固められている。おかげで浅瀬は無くなるし、葦の原っぱや水草も少なくなってきた。小魚には住みにくい環境かもね。そりゃあ、迷ってフラフラしている小

魚がいれば、僕たちだつて食べるよ。でも、そういう環境を作り出しているのは人間たちなんだ。

僕の頭の上をまた何かを通つた。キラキラした玩具みたいなやつだ。でも僕は騙されない。僕の友達の何匹かはこいつに噛み付いて、釣り上げられてしまつたんだ。

それでも昔は釣るだけで逃がしてくれた。でも最近は誰1匹も帰つてこない。

それに最近は漁師のおじさんたちが網で僕たちを一齐に捕まえては殺そうとするんだ。他の魚は逃がして、僕たちだけ殺すなんて話も聞いている。別に食べるわけでもないのにね。

今、人間たちは僕たちを殺そうと必死になっているんだ。

そもそも僕たちは好きでこの日本へ来たんじゃない。最初はアメリカと日本が仲良くなる道具として連れてこられ、今度は人間が釣りを楽しむためにいろんなところに好きでもないのに引越させられたんだ。

そして今、他の魚が減っている罪を全部かぶせられ、殺されかけているんだ。

君だつて誰かに連れ去られて、邪魔になつたから殺すなんて言われたら嫌だろう？ 僕たちだつて同じさ。

僕たちにとつて、今や人間たちは誘拐殺人犯ならぬ誘拐殺魚犯さ。人間の世界じゃ、防犯グッズっていうのが流行っているんだろう？ 僕たちも、それが欲しいよ。

(了)

(後書き)

ブルーギルとともに害魚論が後を絶たないブラックバスですが、そもそも魚自体に罪はなく、ヤミ放流、ゲリラ放流などと呼ばれる人為的な生態系攪乱が問題だと思つたのです。そして、ただ殺せばよいというのはあまりにも人間のエゴ丸出しではないでしょうか？
少なくとも私にはそう思えるのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3831i/>

ブラックバスのつぶやき

2011年1月15日21時11分発行